

## 課題3 地域福祉と健康づくりの充実・推進 「地域福祉の充実」

〔本市様式 P. 37～38〕

### 現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・おまもりネット登録者数：4,050人（平成28年3月末）[+746人]（対象者 約2万人）  
4,224人（平成28年8月末）[4月1日～8月末の新規登録者数+174人]
- ・地域福祉の取組みの認知度：「登下校時の見守り活動」80%、「ふれあい喫茶」68%、「高齢者食事サービス」45%、「子育てサークル」43%
- ・参加・協力できそうな地域福祉の取組み：「地域福祉に関する講演会や講座などへの参加」32%、「地域での見守り活動」31%
- ・地域福祉の取組みが充実していると肯定的に感じる区民の割合：65%
- ・地域福祉をより充実させるために区役所に求めること：「相談が気軽にできるしくみづくり」26%、「地域福祉に関する情報発信」18%、「地域のつながりづくりや交流の場づくり」16%

【平成27年度区民モニター】

### 要因分析（現状・データから導かれる分析結果）

- ・「おまもりネット」への登録者数は4,050人となっており、東成区内で65歳以上の方、約20%に登録いただいているが、今後の高齢者人口の増加などを考慮すると引き続き事業周知が必要である。
- ・区役所に求めることとして、「相談が気軽にできるしくみづくり」や「地域のつながりづくりや交流の場づくり」を求める声が多い。
- ・また、「地域福祉に関する情報発信」のニーズも存在する。

### 課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・「おまもりネット事業」をはじめとした地域福祉の取組みを広く周知し、地域での支え合いの活動につなげていく必要がある。特に、「おまもりネット」については一定の周知を行い登録者数は、4,050人（平成28年3月末）となっており、未登録者への加入促進が必要である。
- ・多様なニーズに対応し地域福祉活動を効果的かつ円滑に推進するためには、活動の担い手の拡大や関係者による議論の充実を図る必要がある。
- ・将来像の実現のためには、多くの区民をはじめ民間事業者や専門機関等が参画・連携していく必要がある。
- ・区民の地域福祉に対する関心を高めていくために、継続的かつ効果的な啓発を実施していく必要がある。

## 平成28年度東成区運営方針

### 主な取組みと中間振り返り（11月末時点）

<取組実績>

○【地域における支え合いの充実—おまもりネット事業の推進—】

- ・新たに65歳になった区民約1,100人へ「おまもりネット」の案内を送付（11月）
- ・おまもりネット登録者数：4,375人（10月末）

○【在宅医療・在宅療養の環境整備】

- ・他職種との連携推進

<中間振り返り>

⇒取組みは予定どおり進捗している。

# 平成 29 年度東成区運営方針策定の方向性

## 区役所が考える方向性

【めざすべき将来像】（概ね10～20年間で念頭に設定）

地域における支え合いが充実し、区民が住み慣れた地域で安心して生活できる。

【めざす状態】（概ね3～5年間で念頭に設定）

- ・多様な主体の連携による地域福祉が進められている。
- ・住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けられる。

【戦略】＜中期的な取組みの方向性＞

- 地域の実情や要支援者のニーズに応じた地域福祉の取組みの充実を図る。
- 地域福祉に関する情報発信や啓発を行う。
- 地域の関係団体や専門機関等の連携により、地域福祉課題の解決に向けた検討を行い、取組みの充実につなげる。
- 在宅医療・介護連携の取組みを推進し、地域福祉の取組みと併せて高齢者の在宅での生活を支援していく。

## 具体的取組

### ○3-1-1【地域における支え合いの充実-おまもりネット事業の推進-】

（29年度予算要求額 22,057千円）

「おまもりネット事業」をはじめとした地域福祉活動を推進するとともに、要支援者の個別支援のためのコーディネートを行う。

- ・地域福祉活動サポーターの配置：11地域
- ・「おまもりネット事業」の個別周知：約1,200人（65歳到達者）
- ・区内で実施しているイベント等での「おまもりネット事業」の周知・啓発
- ・地域福祉活動の推進：11地域
- ・関係機関と連携し、「緊急時安否確認（かぎ預かり）事業」を実施し、独居高齢者を支える仕組みを充実させる。
- ・「専門分野別実務者会議」を開催し、地域と関係機関が高齢者・障がい者支援について検討を行う。

＜目標＞・おまもりネットへの新規登録者数：300人



区役所でのおまもりネット事業の相談会



かみじ親子工作教室（神路）

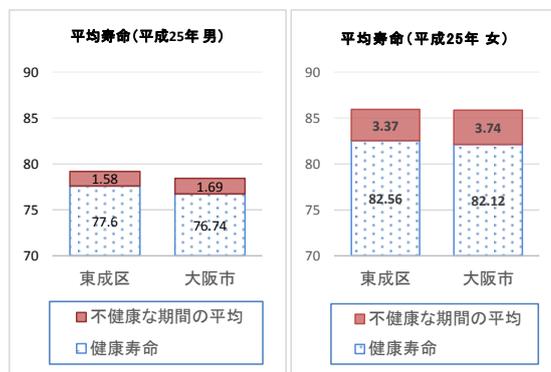
※おまもりネット事業など、各校下での地域福祉の取組みを支援しています。

# 課題3 地域福祉と健康づくりの充実・推進 「健康づくりの推進」

[本市様式 P. 37、39]

## 現状（課題設定の根拠となる現状・データ）

- ・東成区では不健康な期間の平均年数は大阪市と比較して低く、男性 1.58、女性 3.37 となっている。
- ・特定健診受診率は平成 25 年度で東成区 19.4%、大阪市 19.7%、大阪府 27.9%、国 34.2% であり大阪府・国と比較して受診率が低い。



## 要因分析（現状・データから導かれる分析結果）

- ・高齢化が進む中、健康寿命の延伸が重要である。不健康な期間について、大阪市と比較して低くなっているが、健康寿命の延伸に向けた正しい知識の普及啓発や情報提供に引き続き取り組む必要がある。
- ・特定健診の受診率が低く、健康づくりに対する意識が低いと考えられる。
- ・こどもの食生活の改善など健全な生活習慣の形成が十分でなく、食育の実践が十分に浸透していないと考えられる。

## 課題（上記要因を解消するために必要なこと）

- ・生涯を通じて健康保持・増進できるよう、ライフステージに応じて区民が主体的・継続的に健康づくりに取り組める環境づくりが必要である。
- ・健やかな食生活は健康づくりの基本であり、発育が重要な時期から生涯を通じた健やかな食生活習慣を身につける取り組みが必要である。
- ・特定健診受診率の向上への普及啓発や若者層をはじめとした幅広い区民の健康づくりを支援できる効果的な取り組みを進めていく必要がある。
- ・健康長寿をめざし、介護予防活動「いきいき百歳体操」の展開など、身近な地域で健康づくりに取り組める環境づくりが必要である。

## 平成 28 年度東成区運営方針

### 主な取組みと中間振り返り（11 月末時点）

<取組実績>

#### ○【健康づくりへの意識の向上】

- ・「健康づくり講演会～知ってまっか！いきいき百歳体操～」の開催（6月）
- ・地域と協働で開催する健康教室
- ・健康づくり推進部会の開催：2回

#### ○【感染症予防対策】

- ・手洗い教室の開催に向けて高齢施設との話し合いの実施

<中間振り返り>

⇒取組みは予定どおり進捗している。

# 平成 29 年度東成区運営方針策定の方向性

## 区役所が考える方向性

【めざす将来像】（概ね10～20年間を念頭に設定）

- ・地域住民が健康寿命の延伸に向けて、主体的に健康づくりに取り組み、生活習慣病の予防・改善並びに早期発見・早期治療に取り組んでいる。

【めざす状態】（概ね3～5年間を念頭に設定）

- ・区民一人ひとりが健康づくりに関心を持ち、生活習慣の改善や、病気の予防等に取り組んでいる。

【戦略】＜中期的な取組みの方向性＞

- 医師会等の関係機関と連携を強化するとともに、食生活の改善や運動の実践など、区民や地域が主体的に健康づくりや病気の予防等、健康寿命の延伸に向けた取り組みを推進する。

## 具体的取組

### ○3-2-1【ライフステージに応じた健康づくり事業】（29年度予算要求額622千円）

健康寿命を延伸するため、区民が主体的、継続的に健康づくりに取り組める環境づくりを推進する。

- ・小中学校での食育に対する理解を深めるための食育講座の実施
- ・食育に関する情報発信
- ・啓発物品を約2,000人に配布
- ・百歳体操の実施に向けた連絡調整
- ・健康教育冊子の配布による継続支援
- ・継続実施の機運を高めるための情報交換会の開催
- ・健康づくり講演会の開催：1回
- ・ウォーキングマップなどの健康教育用資料の作成・配布による適度な運動の継続支援
- ・地域の健康づくり支援関係者による会議の開催

＜目標＞・区が実施している健康づくりに関する取組みへの満足度：70%以上



保健師による「いきいき百歳体操」講習会



中学校での食育の様子